地域版地域ケア会議実施報告

令和6年度 世田谷 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 9回	
<p>■地域ケア連絡会（コア） 5回</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者：地域振興課、あんしんすこやかセンター <p>■地域ケア連絡会 3回</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者 <p>あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぽーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所（地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課）</p> <p>■地域版地域ケア会議 1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者 <p>あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぽーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所（地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課）、各地区の四者（まちづくりセンター、地区社協、あんしんすこやかセンター、児童館）</p>	
地域合同包括ケア会議としての開催 0回	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
地域づくり	四者による「まちづくり」と個別事例の集積による「まちづくり」の一体的な地域づくり
内容：個別事例から集積した課題及び四者連携による地区課題の解決に向けた取組みを一体的に展開し、地域全体で有機的な地域づくりをさらに推進する必要がある。	
地域での担い手不足	地域で活動する新たな人材発掘の取り組み
内容：町会・自治会、民生委員などを含め地域で活動する人材の高齢化や1人の人材が複数の役員を担っている現状がある。子ども、高齢者、障害者等の各々のネットワークを地域全体で連携し、子ども世代の人材活用など新たな人材を発掘していく取り組みが必要。	
複雑・複合化した事例	多問題事例における各関係機関との連携強化
内容：ゴミ屋敷、近隣苦情、8050問題など事例が複雑化しており、未治療、引きこもり、支援拒否などが多岐にわたる場合が多い。このため支援機関ごとに役割やアプローチが異なるため、連携のタイミングを逸したり、情報共有がスムーズにいかず、連携が十分でない場合がある。	
制度の狭間	各種支援サービスの対象、要件に該当しない人への支援
内容：介護保険、生活保護、障害者自立支援法など各制度のサービス要件に該当しないが、明らかに支援が必要な人の対応に苦慮している。	

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で取り組む地域づくりの推進 ・介護保険法に基づく計画の他、地域保健医療福祉総合計画、地域行政推進計画のもと、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を地域全体で有機的に推進していく必要がある。 	<p>地域版地域ケア会議において、地域振興課と合同で「地域版地域ケア会議」を開催し、各地区の四者連携による「まちづくり」及び個別事例の集積による「まちづくり」を一体的に展開する意識の醸成を図った。そして、先行して取り組んでいるより良い活動を地域全体に波及できるように、7地区の取組み状況を一覧表にし（見える化）、四者と関係機関等で情報共有及び意見交換を行い、地域全体の質の向上に取り組んだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域での担い手不足等の『地域課題』を解決する取組み ・『地域課題』の解決に向けた具体的な社会資源開発や新たな事業展開等を推進していく必要がある 	<p>地域ケア連絡会において、各関係機関での支援内容や役割、意見交換を行いながら、地域課題の集積や更新だけでなく、解決策に焦点をあてた意見交換を進めた。（新たな人材発掘の取り組みや孤立死予防に向けたハイリスク者リストの作成、見守り強化の提案など）そして、地域課題を共有し、「つながろう世田谷」をキャッチフレーズとして、ネットワーク強化を図った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・制度の狭間及び複雑化・複合化した事例への支援 ・各種の支援サービスは有るが、対象要件に該当しない場合、中心となる支援機関や区の所管課が明確にされず、事例が重度化している場合がある。 	<p>地域ケア連絡会のコア会議、地域ケア連絡会において、区全体で検討されている新たな施策（金銭管理事業、福祉緊急対応支援の特別支援チーム等）について、意見交換及び情報提供を行い、制度の狭間問題や複合化した事例への包括的な支援体制の強化を図った。</p>

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

<今後の方向性>

- ・引き続き、「つながろう世田谷」をキャッチフレーズに各関係機関、四者、庁内の所管課とのさらなる連携強化を図りながら、四者連携による「まちづくり」及び個別事例の集積による「まちづくり」を一体的に展開し、地域全体で有機的な地域づくりを強化していく。
- ・個別事例より見えてきた複雑化・複合化した課題や制度の狭間支援に対応するため、重層的支援体制整備事業（多機関協働事業）、福祉緊急対応支援事業の「特別支援チーム」、金銭管理事業などの新たな事業を通して、包括的な支援体制の構築を図り、地域包括ケアシステムのさらなる推進に取り組む。

<残された課題>

- ・子ども、高齢、障害者等の各ネットワークをつなげ、人材活用を図る取り組みの推進。
- ・将来の世田谷版地域包括ケアシステムの取組みに向けた10年の振り返り作業に努め、本庁や支所、関係所管が協力し、さらなる地域包括ケアシステムを推進していく。

地域版地域ケア会議実施報告

令和6年度 北沢 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 9回	
参加者（所属）： あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぶらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課	
地域合同包括ケア会議としての開催 2回	
参加者（所属）： あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぶらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、相談支援事業所、病院ソーシャルワーカー、保健福祉センター所長、地域振興課、まちづくりセンター、生活支援課、健康づくり課、保健福祉課、介護予防・地域支援課、児童館	
テーマ： 令和5年度に引き続き、「認知機能低下により、保清・金銭管理・安全管理に支障が生じた方への対応」をテーマに、関係機関の強みを活かした地域づくりについて取り組んだ。	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
孤立・介入困難	様々な課題の根底にある「孤立」への対応
内容：サービスの介入拒否、精神疾患の疑い、本人の問題意識の低さなどから、個人単位、世帯単位で地域からの孤立がある。気になる世帯への介入が困難であり、事態が悪化してから顕在化することが多い。	
金銭管理	金銭管理に課題がある高齢者への対応
内容：家庭内のキーパーソンが役割を果たせなくなり、収支バランスが取れなくなる。資産や預貯金はあっても、医療費やライフラインの支払いができない。認知症等により、無心や詐欺に遭うリスクが高い。	
認知症・精神疾患	認知症や精神疾患の疑いのある高齢者への対応
内容：認知症、何らかの精神疾患が疑われる高齢者や家族への介入や、対応が困難。医療機関や専門機関、地域とのつながりが必要。	
防災	震災発生時の対応
内容：災害時に具体的に何をすべきか、行政や、サービス事業所が持つ支援者リストや行動計画に空白や重複はないか。役割分担や備え、区民への普及啓発が必要。	
複合的な課題	高齢者個人だけでなく、世帯への対応
内容：8050、医療未受診の家族、障害のある家族など高齢者本人の権利擁護のために、世帯員への対応が必要な場合が多い。支援者との連携も含め、対応が困難である。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
<p>経済的困窮を抱える世帯への支援</p> <p>生活保護には至らないが、金銭的に困窮している世帯や「8050世帯や、ヤングケアラーのいる世帯」など様々な理由で経済的に困窮している世帯への支援が必要。</p>	<p>1月の地域合同包括ケア会議において、ケアマネジャーや相談支援専門員に加え、保健福祉センター職員や病院ソーシャルワーカーなど幅広い職種で事例検討を行った。事例を通じ、ぽらっとホーム世田谷等の社会資源を紹介するとともに、好事例や、知識の共有を行う等、顔の見える関係づくりの重要性を再確認した。</p>
<p>震災発生時の対応</p> <p>震災発生時に自ら避難することが困難な者に対する支援について、日頃の備え等を含めて、支援者間で共通認識を持つ必要がある。</p>	<p>10月の拡大版地域ケア連絡会において、ケアマネジャーや相談支援専門員に加え、まちづくりセンター職員、児童館職員、保健福祉センター職員を加え、震災が起きた際に地域の支援者としてどう対応すべきかをグループで検討した。想定される被害状況や世田谷区の災害対策の取組みについて基礎的かつ、具体的な説明があり、防災意識を高めるきっかけとなった。</p>
<p>警察署との連携</p> <p>高齢者の安心、安全を守るために日々の業務で連携することが多い。よりよい連携のため、業務内容について、相互理解することが必要。</p>	<p>7月の地域ケア連絡会において、「相互理解と連携」をテーマに北沢警察署、成城警察署との意見交換会を行った。安否確認、虐待対応、詐欺、近隣トラブル、情報の取り扱い等様々な質問に対し、丁寧に回答いただき、貴重な機会となった。</p>
<p>今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 令和5年度、6年度の取組み内容や、あんしんすこやかセンターから抽出した地域課題から令和7年度、8年度の地域課題を検討した。 「地域でつながる北沢」をテーマに個人・世帯の孤立に対応していく。 8050や、複合的な課題を抱える世帯にチームで対応するため、顔の見える関係づくりを推進する。 孤立の背景、成育歴等、について学ぶ機会を設ける予定である。 震災発生時の対応について、引き続き取り上げる予定である。 重層的支援体制整備事業の中核となる多機関協働事業が開始される中で、現在は高齢者が中心の取組みになっているが、障害者、子ども、生活困窮者など、高齢者以外の分野を地域ケア連絡会でどのように取り上げるか、引き続き検討が必要である。 	

地域版地域ケア会議実施報告

令和6年度 玉川地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催	10回
<p>参加者（所属）： あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぼーとたまがわ）、玉川地域社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課 ※内容によって、玉川警察署、生活支援課が参加。</p> <p>※地域版地域ケア会議（地域課題の検討）9回、地域ケア連絡会（コア会議）1回</p>	
地域合同包括ケア会議（拡大）としての開催	1回
<p>参加者（所属）： 障害者施設、障害居宅介護、主任ケアマネジャー、訪問看護事業所、あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぼーとたまがわ）、玉川地域社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、民生委員、介護予防・地域支援課、地域振興課、生活支援課、健康づくり課、子ども家庭支援課、保健福祉課</p> <p>テーマ：「立ててみよう！避難計画～多職種みんなで考える地震・風水害への備え～」</p> <p>玉川エリア自立支援協議会との共同開催。令和5年度に引き続き「災害」をテーマに開催。震災及び水害時の避難行動を検討し、平時から個別ケースの避難について考えるきっかけと支援者間で災害時の支援・連携体制の強化につながる機会とした。</p>	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
連携・制度の狭間	経済問題を抱える身寄りのない方への支援
<p>内容：独居、身寄りなし・キーパーソン不在の高齢者が、認知症や精神障害による判断能力の低下や経済的問題などを有する場合、権利擁護事業や成年後見制度、生活保護などの制度の狭間で必要な支援につながりにくいという問題がある。</p>	
連携・制度の狭間	複雑・複合化した多問題ケースの支援
<p>内容：8050・精神疾患・ごみ屋敷・キーパーソン不在や身寄りなし・経済的問題など、複数の問題が絡まりあい支援の長引く多問題ケースが増えている。</p> <p>虐待など問題が重度化する可能性も高く、当事者家族だけでなく支援者側も疲弊していく。問題の複雑・複合化を予防するための仕組みが必要である。</p>	
フレイル	フレイル予防
<p>内容：8050・精神疾患・ごみ屋敷・キーパーソン不在や身寄りなし・経済的問題など、複数の問題が絡まりあい支援の長引く多問題ケースが増えている。</p> <p>虐待など問題が重度化する可能性も高く、当事者家族だけでなく支援者側も疲弊していく。問題の複雑・複合化を予防するための仕組みが必要である。</p>	
認知症・居場所	認知症への理解促進
<p>内容：認知症の方が地域に出かけるきっかけがなく孤立してしまう。地域とつながっていない独居高齢者も多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が多く見受けられる。</p>	
セーフティネットワーク	緊急時におけるセーフティネットワークの構築
<p>内容：「身寄りのない独居高齢者」「認知症高齢者」が増え、安否確認等の緊急対応も増加傾向にある。警察・消防や福祉の関係機関や事業所の担当者が代わると対応方法に変化が生じることもあり、緊急対応時等の情報共有や連携について警察・消防と継続した関係づくりが難しい。</p>	

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>複雑・複合化した多問題ケースの支援</p> <p>8050・精神疾患・ごみ屋敷・キーパーソン不在や身寄りなし・経済的問題など、複数の問題が絡まりあい、支援の長引く多問題ケースが増えている。虐待など問題が重度化する可能性も高く当事者家族だけでなく支援者側も疲弊していく。問題の複雑・複合化を予防するための仕組みが必要である。</p>	<p><地区・地域>・身寄りのない独居高齢者が増える中、ケアマネのシャドーワークが課題となっている。多問題ケースはケアマネのシャドーワークにつながる傾向にあり、問題が深刻化する前の対応が重要になってくる。そこで、玉川地域主任ケアマネ連絡会を開催し「重層的支援体制整備事業」に関する勉強会を開催し、問題の深刻化の予防と連携することの重要性について学んだ。</p>
<p>セーフティネットワークの構築</p> <p>「身寄りのない独居高齢者」「認知症高齢者」が増え、安否確認等の緊急対応も増加傾向にある。警察・消防や福祉の関係機関や事業者の担当者が代わると対応方法に変化が生じることもあり、緊急対応時等の情報共有や連携について警察・消防と継続した関係づくりが難しい。</p>	<p><地区・地域>・玉川警察署（生活安全課・ふれあいポリス）と継続した関係づくりと互いの業務・役割について理解することを目的に、2月の地域ケア連絡会で意見交換を行った。業務内容や緊急対応時の必要な情報と共有の方法、介入のタイミングなどを理解することができた。次年度以降も定期的に連絡会を開催し、連携を図っていく。</p>
<p>認知症への理解促進と居場所づくり</p> <p>認知症の方が地域に出かけるきっかけがなく孤立してしまう。地域とつながっていない独居高齢者も多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が多く見受けられる。</p>	<p><地区・地域>・令和3年度から3年にわたり実施した「前期高齢者実態把握訪問」の活動報告書を令和6年5月に発行した。・実態把握訪問で把握したボランティアに関心のある方と経験者を対象に五者連携事業として『支え合い座談会(ボランティア交流会)』を開催。地域にどのようなボランティアのニーズがあるかを知ることができ、一歩踏み出す機会となり登録数も増えた。</p>

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

●今後の方向性

・令和6年度は新たな地域課題の検討を行い、「身寄りなし」「生活困窮」「フレイル」の3つのキーワードに絞り込んだ。今年度は、そのキーワードに共通する「セーフティネットワーク」について、具体的に取り組んでいく予定。・今後「前期高齢者実態把握訪問」の取組みから把握した課題についても、課題解決に向けた具体的な取組みの検討を行っていく予定。

●残された課題

【ボランティア】「前期高齢者実態把握訪問」で担い手の発掘はできたが、活動先の情報が少なく活躍できる場をリアルタイムでつなげられず、活動先とのマッチングが課題。

【セーフティネットワーク】地域課題を検討する過程で「あんしんカード」に関する疑問点が出た。取り組み主体やカードの形態、保管場所に統一性がなく、緊急時に警察や消防に活用されているのかが不明。さらに、記載内容の情報が更新されているのか課題が見えてきた。警察や消防と連携できる統一的な仕組みづくりが必要である。

【ケアマネのシャドーワーク】「身寄りがなく、キーパーソン不在」ケースにおいて、入退院や介護保険外の事務手続き・金銭管理等、生活を送る上で必要な諸々の支援をケアマネが親族に代わってやむを得ず担っている場合がある。ケアマネが本来業務以外の支援をどこまで行うべきか、またその支援を誰が担うのかが課題。

地域版地域ケア会議実施報告

令和6年度 砧 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 9 回	
参加者（所属）： あんしんすこやかセンター、地域障害者相談支援センター、砧地域社会福祉協議会、成年後見センター、ボランティアビューロー準備室、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課 テーマにより、上記に加え、成城警察署、成城消防署、区民後見人砧地域会が参加。	
地域合同包括ケア会議としての開催 2 回	
参加者（所属） 1 回目： 各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、サービス提供責任者、福祉用具関係事業者、保健福祉課 2 回目： 各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー（小規模多機能、看護小規模多機能含む）、一般社団法人ヤングケアラー協会、子ども家庭課子ども・子育て支援担当、保健福祉課	
1 回目テーマ： 砧地域を支える医療と福祉～顔の見える関係づくり～ 地域連携医による医療講座、グループワーク	
2 回目テーマ： 家庭のケアを子どもがしている～ヤングケアラーを知ろう～ 講義『世田谷区のヤングケアラーへの取り組み』 講義『ヤングケアラーから「家族まるごと支援」を考える』	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
理解、制度	金銭管理に問題が生じている高齢者への支援
内容： 収支が合わないなど金銭管理に問題が生じていても、生活スタイルを変えることが難しい方への適切な支援が課題となっている。特に、問題解決の必要性を感じていない高齢者へのアプローチが難しい。また、現存する制度の枠組みでは対応しきれないケースもあり、支援が困難となっている。	
連携、制度	8050世帯を支援する関係機関の連携のあり方
内容： 親（80世代）と子（50世代）のそれぞれの支援者同士の連携のあり方について、支援者間で考え方の相違があるため、世帯全体への支援体制を構築することが難しい。連携の際の個人情報の取扱い等や制度の差異について相互理解できる機会が必要。	
制度、地域活動	若年性認知症の本人や家族を地域で支える仕組みづくり
内容： 若年性認知症については相談件数こそ少ないものの、専門の相談窓口がなく介護保険以外のサービスや制度について情報が少ない。また、家族が介護負担などを気軽に話し合える場も少ない状況がある。	
理解、連携	避難行動要支援者への支援
内容： 個別避難計画を作成しているものの、多摩川風水害および震災時の避難行動要支援者に対する支援について、具体的な方法や各機関との連携体制や役割分担の整理が必要。	
理解、普及啓発	認知症高齢者の車の運転について
内容： 認知症の診断を受け、運転が困難になっている当事者に免許返納など、運転をやめていくことの理解を得るのは難しい。自主返納に対する普及啓発を進めることと、返納することで特典が受けられるような仕組みや代替となる移動手段の確保が望まれる。	
孤立、制度の狭間	孤立が心配な独居の前期高齢者への支援について
内容： 退職などにより社会とのつながりが途絶えてしまった後、心身は元気であった独居の前期高齢者が突然に死去し、孤立死として発見されるケースが増加している。“支援の提供”という視点のみでなく、多様なニーズにあった居場所や活躍の場、必要な情報が届く体制づくりが必要となっている。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
<p>権利擁護、普及啓発</p> <p>高齢者が成年後見制度利用にスムーズに繋がらないことが課題となっている。</p> <p>金銭管理や契約行為が困難になったときに、それらを第三者に任せても安心だと思っただけのよう、まずは、高齢者の身近な支援者であるケアマネ等に対して、成年後見制度やその活用について正しい知識と理解を深めてもらう機会を作る。</p>	<p>昨年度と同様に令和6年12月に「成年後見制度についての勉強会」をケアマネジャーおよびヘルパー事業所管理者向けに開催。昨年度に引き続き、成年後見センターに事例提供および制度説明等に協力いただくとともに、区民後見人自主グループ（砧地域の有志とあんしんすこやかセンター職員に参加していただいたことで、多職種でのグループワークを行うことができた。事例を通して制度や支援の仕方を学べ、身近な支援者の気づきが大切なことや各支援者間の情報共有が重要なことを知ってもらえる機会となった。（地域の取組み）</p>
<p>連携、制度</p> <p>8050世帯等において、高齢者の支援者と50世帯の支援者の間で、連携のあり方や個人情報の取り扱い等の考え方に相違があり支援者間の連携が難しい。</p>	<p>高齢領域と障害領域の支援者同士が顔を合わせられる機会を作るため、障害支援担当と企画検討を行い、東京リハビリテーションセンター世田谷の協力を得て「うめとびあ見学会～障害福祉と高齢福祉の連携を考える～」を開催。相互に活用できるサービスを知るとともに、障害福祉サービスから介護保険への移行に関する講義を行った。また、相互の支援者が意見交換をするグループワークも行った。参加者は連携の必要性を感じており、課題としてニーズが高いことが分かった。（地域の取組み）</p>
<p>地域活動、普及啓発</p> <p>若年性認知症を介護する家族同士がつながる場が少ない。</p>	<p>相談件数は少ないものの必要な制度について知る機会や家族が集える場も必要と考え、若年性認知症に限定した家族会を開催。砧地域のあんしんすこやかセンターとケアマネ事業所、当事者家族に周知。経験豊富なケアマネと行政書士にアドバイザーとして参加を依頼し、当日は家族2名が参加した。区には若年性認知症専門の相談窓口がないため、情報を得ることや、家族が気持ちを話せる場は地域の中に必要だと思われる。（地域の取組み）</p>
<p>今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）</p>	
<p><今後の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで地区で検討した課題を地域で再検討する形で、会議運営を行ってきたが、昨今は抽出される課題も類似する内容のものが多くなってきている。今後は、これまで上がってきた課題の中から取組むべきテーマを峻別し、将来的に課題となるテーマも含めて地域課題として取り上げていきたい。また、テーマによっては高齢分野にとどまらず他分野（障害児・者や子ども、外国人など）との連携ができるよう継続して取り組んでいくことを検討する。加えて、他の会議体（地域包括ケア連携会議等）との合同開催等も検討し、地域包括ケアシステム全体の推進に繋がるための効果的な方法を見極めていく。 <p><全区レベルで検討が望まれる課題等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症高齢者の免許返納について <ul style="list-style-type: none"> 警察による返納メリット講義を受ける機会やパンフレットの配布・自主返納者から話を聞く場の創出、ふれあい訪問でチラシをポスティング・医療と連携を図り主治医から返納の呼びかけを依頼する等普及啓発の取組みが必要だと思われる。 タクシー券、バスの助成、公共交通機関利用でポイント獲得できるなど自主返納を後押しできる制度を構築することや、他の移動手段の創出（シェアライドの推進・移動支援、同行サービス・コミュニティバス等）や、スポーツクラブや病院・施設などの送迎車両を活用する仕組みが望まれる。 ○要介護者等の避難対応について <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や支援者の避難訓練や避難所の見学、避難先（ホテル等含む）や移動手段の確保、実行性のある避難計画の作成など具体的な仕組みの確立が全区的に望まれている。 ○孤立が心配される前期高齢者等について <ul style="list-style-type: none"> 活動、活躍の場の創出、就労している人が相談できる体制やコミュニティ事業の拡充、相談先や制度やサービス等の周知が必要である。また、情報が必要な範囲で届いているかを含めた、幅広いニーズの把握が望まれる。 	

地域版地域ケア会議実施報告

令和 6 年度 烏山 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 8 回	
参加者（所属）：上北沢・上祖師谷・烏山あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、烏山地域障害者相談支援センターぽーとからすやま、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぷらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、烏山病院、タンドル南烏山、久我山病院ケアオフィス、子育て支援コーディネーターぶりっじ、上北沢・上祖師谷・烏山まちづくりセンター、烏山ボランティアビューロー、せたがやボランティアセンター、保健福祉センター長、健康づくり課、子ども家庭支援課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課 計画・相談、保健福祉課長、保健福祉課（地域支援、障害支援）、日本大学文理学部社会福祉学科教授	
地域合同包括ケア会議としての開催 1 回	
参加者（所属）：烏山地域内の団体、区民、事業者、支援者、行政関係者（民生児童委員、特別養護老人ホーム、病院、町会自治会連合会会長、障害関係事業所、ボランティア関係、主任ケアマネジャー、デイサービス、商店街、駐在所、消防、区内中学、Qs garden、ネット・わぁ〜くショップなど） 53 団体 参加者 68 名+事務局 7 名（上記地域ケア連絡会の出席者含む）	
テーマ： ☆つなぐ烏山☆ 烏山交流・名刺交換会と合同開催 ①☆つなぐ烏山☆の活動報告 ②【烏山がこんなまちになったら良いな】をテーマにグループワーク ③参加団体の交流タイム	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
災害対策	災害時を想定した支援体制
内容：災害時の避難情報や町会、まちセンの情報共有が不足していると、いざという時の支援が出来ないため、地区の支援体制を整える必要がある。	
理解・連携	他者に対する妄想から生活が困難になっている独居高齢者への支援
内容：妄想により他者への攻撃性が高く、特定の支援者しか関われない。支援者を増やすためにも、早期の段階で多機関と情報交換をしていく必要がある。	
見守り	セルフネグレクトで拒否のある高齢者への支援
内容：訪問拒否が続く不衛生な環境で生活をする独居高齢者への関わり方。本人の意向を再確認しつつ、地域の支援者同士でつながりを構築していく。	
権利擁護・制度	独居・身寄りのない高齢者の支援
内容：近隣住民や支援者は「困ったとき」の心配をしているが、個人情報との壁で情報が共有されないことへの不安。緊急連絡先の無い高齢者が増えてきているため、いざという時の仕組みが必要。	
見守り・理解	公営住宅における見守り支援
内容：アクション講座の開催により認知症高齢者と住民の共生や見守り意識を高めていく。自治会役員も高齢化してきているため、支援が必要となってきている。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
<p>過年度の検討課題の振り返り</p> <p>地区・地域での課題に対する取組みをより明確にするために適宜振り返りを行い、新たに出てきた課題の検討、効果のあった取組みについて共有することで、地区・地域における活動を更に発展させる必要があると考える。</p>	<p>・「8050問題」に関しては、「ぽーと会議」を定期的に行うことで、世帯の状況変化を正確に捉え、必要な支援の方向性を確認することが出来ている。</p> <p>・制度の移行に関しては「移行会議」を行うことで、高齢・障害の支援関係者間で情報を共有し、移行に向けての方針決定等を行っている。</p> <p>・身元保証に関しては、「熱中症予防シート」に緊急連絡先等の記入欄を追加したものを烏山独自で作成して配布した結果、全区で共通したシートとなった。</p> <p>熱中症予防シートについては、目に見える成果でもあるため、地区・地域から発信しようというモチベーションになっている。</p>
<p>災害時の備えの準備不足</p> <p>住み慣れた町で暮らしていく中で、突然の災害に見舞われた時に、どのようにすれば良いのか、本人のみならず支援者も準備が必要ではないかとの視点で検討が必要と考える。</p>	<p>・まずは地域振興・防災係の職員から、世田谷区における防災の取組みについて聞くことから始め、「在宅避難」が何故必要なのかを学ぶ機会を作った。実際に世田谷区災害ボランティアセンターの職員から被災地の様子や活動内容を聞くことで、避難所に行くことが前提ではなく、在宅避難をすることでのメリットもあることの意識をもつ機会となった。</p>
<p>今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）</p>	
<p><今後の方向性></p> <p>・今年度、『災害時の備えの準備不足』をテーマに世田谷区の防災対策についての啓発、各事業所に於いて実践できそうなことの共有などを行う中で、個人情報の問題（どこまで何を地域で共有するか）や要介護4、5という方が実際に事前に防災グッズを準備することの難しさ、在宅避難を安全に行うにはどうすればいいのかなど、新たな課題を知る機会となった。世田谷区に於いても、個別避難計画の作成等も行っているため、今後も続いていく課題と考える。</p> <p>・来年度は『個人情報の保護と見守りの両立』というテーマで「地域包括」という考え方のもと、様々な関係機関と情報共有を行っていく中で、どこまでが許容範囲なのか、何故必要な情報が共有できないのかなどを学び検討していく予定である。</p>	